※令和４年度以降入学生用

学校番号	3032

令和5年度　国語科

教科	国語	科目	(学)古典講読	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	「三訂版　正しく読み・解くための力をつける古典　ステップ３」(数研出版) 「最新国語便覧」新訂版　(浜島書店) 「古文解釈のための総合力を養う　完全マスター古典文法」改訂三版(第一学習社) 「体系漢文」三訂版(数研出版)						

1　担当者からのメッセージ(学習方法等)

- 古典講読とは、言語文化や古典探究を中心とした既存の古典学習をより深化・発展させるために設定された科目です。これまでの学習成果を確実なものとした上で、更なる成長を目指してください。
- 古典の文章読解としては、古文と漢文の文章について問題演習の形式で取り組みます。古典探究の授業で扱う文章よりも高度なものを、より早く、深く読解することになるので、予習が欠かせません。古典の文章に触れる機会を増やしてください。
- また、古典への関わり方は、その文章読解のみに限りません。現代において、古典作品の持つ価値を伝えることやその新たな位置づけを探るためにも、自分にとっての古典作品との関わりを考える必要があります。その機会の一環として、古典作品にまつわるプレゼンや創作活動を行います。教養を深めるだけではなく、古典作品との楽しみ方を模索してください。

2　学習の到達目標

1. 生涯にわたる社会生活をさらに充実したものとするために必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解の一層の深化をはかる。
2. 論理的に考え、豊かに想像する力、物事を批判的に捉え、深く共感する力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方を的確に理解すると共に、その理解を互いに伝え合う力を高め、自己と他者が協同する社会の中での自らの位置取りや振舞い方を洗練することができるようになる。
3. 言葉の技能的側面に加え価値的側面への認識を確立するとともに、生涯にわたって古典との関わりを保って自己を向上させ、世界における我が国の言語文化の特色を理解した上で、言語活動全般に取り組んで、その発展に貢献しようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	● 古典読解に必要な語彙や文法の知識を身に付け、作品の内容を理解している。 ● 古典文化の意義について、現代の言語文化の関連を踏まえて、理解を深めている。	● 古典読解に関する語彙や文法の正確な理解にもとづき論理的に考える力、豊かに想像する力、的確に表現したり理解したりする力を伸ばしている。	● a「知識・技能」および b「思考・判断・表現」の内容に即し、主体的に学習に向き合っている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

4　学習の活動

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
前期	古典作品を読むⅠ [教材] ● 古文文章 ● 漢文文章	a:古典文法における語彙や文法を身に付け、作品内容を理解している。 b[読]:文章を的確に読解し、文章から得られる教訓や登場人物の心情について考えを深めている。 c:a･b の内容に関して主体的に取り組んでいる。	提出物	提出物	成果物
	古典作品の文化的意義について考えるⅠ [教材] ● 短歌、俳句、文章など	a:古典作品が、言語文化に与えた影響について理解を深めている。 b[書]:自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど表現の仕方を工夫している。 c:a･b の内容に関して主体的に取り組んでいる。	成果物	成果物	成果物
後期	古典作品を読むⅡ [教材] ● 古文文章 ● 漢文文章	a:古典文法における語彙や文法を身に付け、作品内容を理解している。 b[読]:文章を的確に読解し、文章から得られる教訓や登場人物の心情について考えを深めている。 c:a･b の内容に関して主体的に取り組んでいる。	提出物	提出物	成果物
	古典作品の文化的意義について考えるⅡ [教材] ● 短歌、俳句、文章など	a:古典作品が、言語文化に与えた影響について、現代との関連も踏まえて理解を深めている。 b[話/聞]:自分の思いや考えが伝わるよう具体例を効果的に配置するなど、話の展開や構成を工夫している。 c:a･b の内容に関して主体的に取り組んでいる。	成果物	成果物	成果物

※表中の観点について　a:知識･技能　b:思考･判断･表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[b]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

･話すこと／聞くこと　…（　15　）時間

･書くこと　…（　15　）時間

･読むこと　…（　40　）時間